

かけがわ学力向上ものがたり

子どもたちの未来のために

人はこの世界に生を受けたときから、毎日が成長の連続です。子どもは自分ができることを一つずつ増やし、自信をつけて一步一步前へ進みます。子どもの得意なことや成長の仕方は一人一人異なります。私たちは、その違いを理解し、個にに応じて、夢や希望、こころざしを育むことが仕事です。

点数だけにとらわれて学力を論じてしまうと、子どものかけがえのない大切なことを見落としてしまうかもしれません。

教育基本法第1条では、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない。」とうたわれています。

子どもたちの未来のために、広い意味での学力が育つ「ものがたり」を導いていきましょう。そして、地域でもグローバルにも活躍できる人を育てていきましょう。

教育長 山田 文子

平成28年3月
掛川市教育委員会

目 次

頁

序 章 「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい……………	1
第1章 「学力」とは……………	2
1 今求められている「学力」	
2 これからの未来を創り出すために必要な力「かけがわ型スキル」	
第2章 「全国学力・学習状況調査」の分析から……………	4
1 現状と課題	
2 学力の高い子 掛川10の法則	
3 学びの環境改善のための提言	
第3章 学びのものがたり……………	7
1 「新たな学びのプロセス」への転換	
2 言語活動の充実	
3 地域の人に学ぶ活動の推進	
4 読書活動の推進	
5 ICT・外国語活動の推進	
6 読解力を伸ばす問題の作成・活用	
7 市指定研究校による研究成果の共有	
8 学力向上指標	
第4章 家庭のものがたり……………	12
かけがわの子どもたち家庭実践項目	
家庭学習のすすめ「家庭での取組ポイント」	
第5章 我が校のものがたり（別冊）……………	14
学力向上のための取組内容	
※ 各校で作成	

序 章 「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい

掛川市の教育振興基本計画「人づくり構想かけがわ」において、学校教育の基本目標を「夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」としています。

これを受け、各学校は、「人づくり構想かけがわ」の実現に向けて、子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことに取り組んでいます。

また、各学校では、習熟度別の学習支援、放課後の教え合い学習、夏休み期間中の補充学習など、様々な工夫をして学力の定着を図る努力をしています。

しかし、今日、学力の低下が大きな社会問題となる中、改めて、学力の捉え方や向上策、学校・家庭・地域の役割などが問われています。

そこで、掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにしたら学力の向上が図れるか、その理念や方法等を「ものがたり」としてまとめた「かけがわ学力向上ものがたり」を策定することとしました。

「かけがわ学力向上ものがたり」の構成は、序章「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい、第1章「学力」とは、第2章「全国学力・学習状況調査」の分析から、第3章 学びのものがたり、第4章 家庭のものがたり、第5章 我が校のものがたり（各学校で作成）となっています。

各学校においては、児童生徒の学習実態に基づいた学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成し、それを基盤として全教職員が共通理解のもとに組織的な協働を図り、授業改善に向けた積極的な取組が求められます。

そして、子どもの学力向上の実現に向け、学校と家庭・地域、教育委員会が連携して取り組んでいくことが大切です。

今後、この「かけがわ学力向上ものがたり」のもと、各学校が学力向上に取り組み、掛川の一人一人の子どもを育む教育活動の充実に資することを期待します。

第1章 「学力」とは

1 今求められている「学力」

激しい変化が予想される社会においては、一人一人が困難な状況に立ち向かうことが求められるが、そのために、教育は、個性を發揮し、主体的、創造的に生き、未来を切り拓くたくましい人間の育成を目指し、直面する課題を乗り越えて、生涯にわたり学び続ける力をはぐくむことが必要である。

このために子どもたちに求められる学力としての「確かな学力」は知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたものであり、これを個性を生かす教育の中ではぐくむことが肝要である。

「確かな学力」、「豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康や体力」までを含めて構成する「生きる力」がこれからの子どもたちに求められている力であることを前提とし、その育成を行っていくために、まずは「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」の確実な育成を新学習指導要領のねらいの一層の充実のための課題としている。

(中央教育審議会「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について(答申)」より抜粋)

2 これからの未来を創り出すために必要な「かけがわ型スキル」

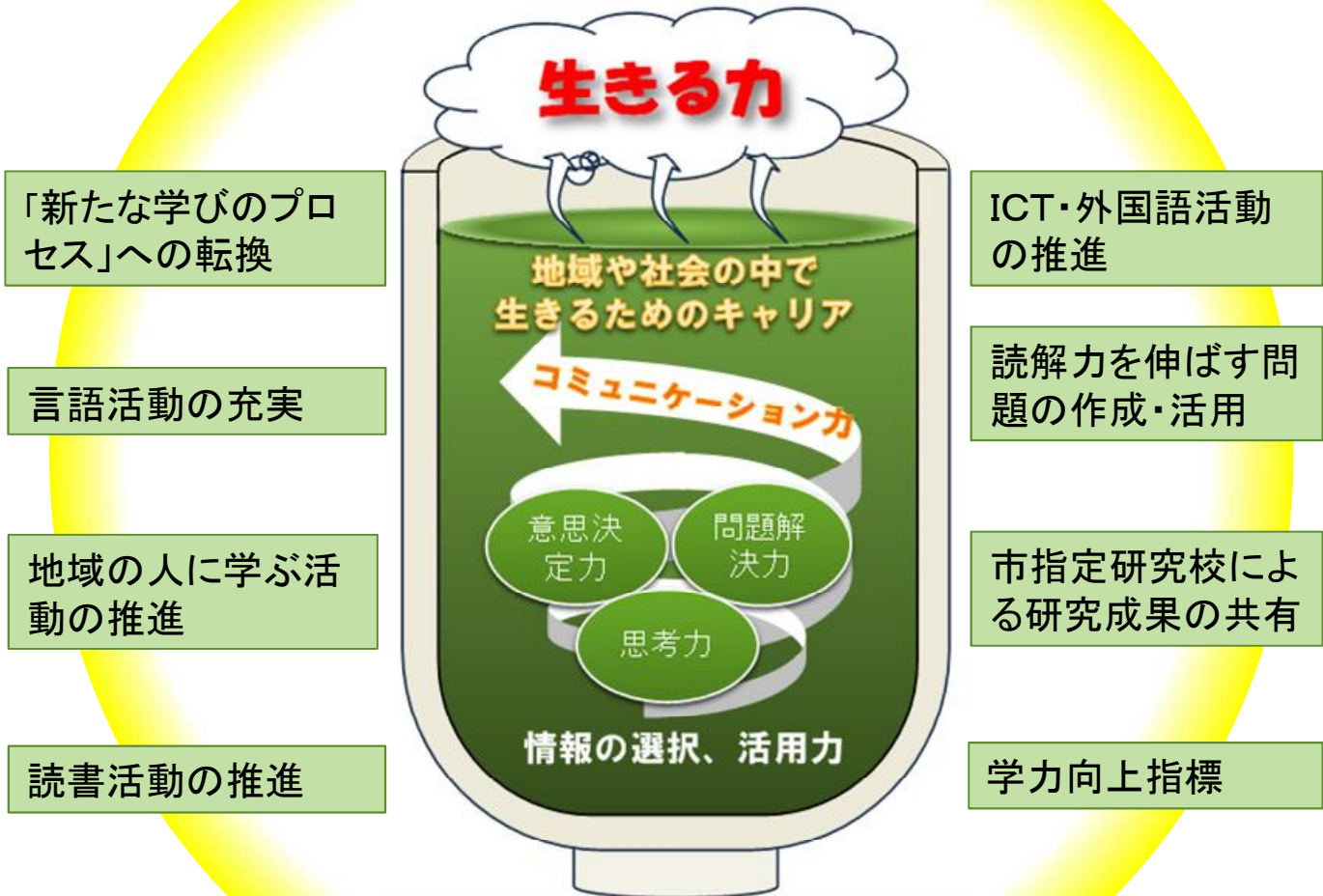
掛川市では、これからのグローバル社会を生き抜くために求められる思考力や問題解決能力、人とかかわるコミュニケーション能力など、これからの次代を担う子どもたちが身に付けるべき「21世紀型スキル※」を参考にして、「かけがわ型スキル」6項目を定め、言語活動を重視した教育への転換を図ります。

- 「かけがわ型スキル」とは…
- ①思考力
 - ②問題解決力
 - ③意思決定力
 - ④コミュニケーション力
 - ⑤情報の選択・活用力
 - ⑥地域や社会の中で生きるためのキャリア

※世界の教育関係者らが立ち上げた国際団体「ATC21s」(The Assessment and Teaching of 21st-Century Skills=21世紀型スキル効果測定プロジェクト)が提唱する概念。

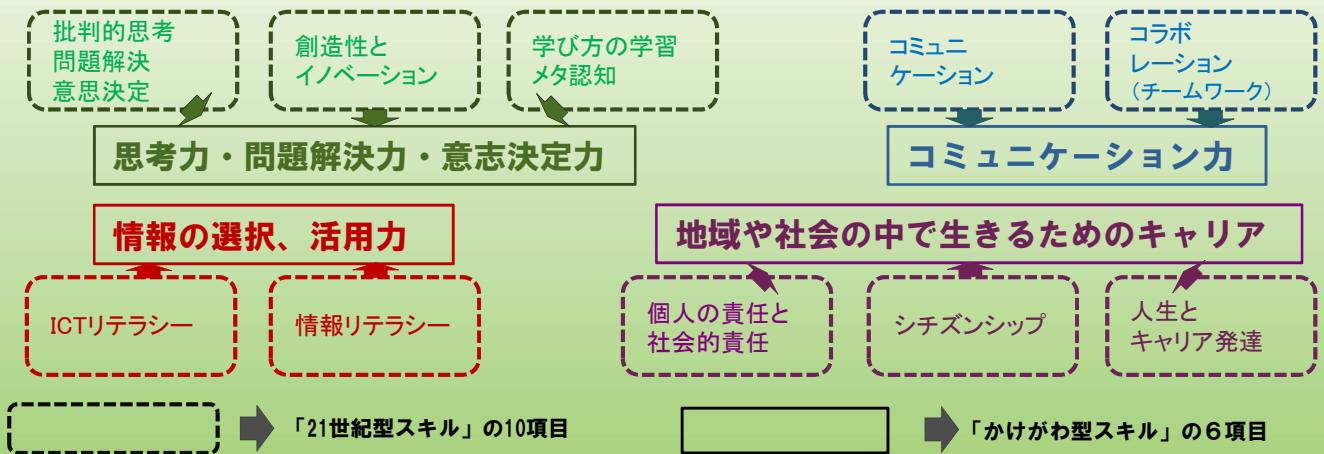
かけがわ型スキル～かけがわ茶モデル～

「夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる『かけがわの子ども』」



「かけがわ型スキル」と「21世紀型スキル」

「かけがわ型スキル」は、「21世紀型スキル」を参考にして、大切にしたいスキルを、分かりやすい言葉を使って示しました。



第2章 「全国学力・学習状況調査」の分析から

1 現状と課題

これからの社会は、急激な変化が予想され、周りの状況の変化や環境に適応しながら、困難な状況に立ち向かうことのできる人間の育成が求められています。21世紀を生き抜く子どもたちに、思考力、問題解決力、コミュニケーション力などの必要な力を身に付けるため、掛川市では、学校だけでなく、家庭・地域等が連携して市民総ぐるみの教育を進めています。

全国学力・学習状況調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要です。平成27年度の結果から見てきた掛川市内児童生徒の学力の概要は、以下のようになります。

※全国・県の平均正答率を100とした場合の市の平均正答率の指標値

【小学校】	小国A	小国B	小算A	小算B	理 科
全国比較指標値	101	103	104	100	100
県比較指標値	98	100	101	99	101
【中学校】	中国A	中国B	中数A	中数B	理 科
全国比較指標値	103	106	106	115	109
県比較指標値	102	103	104	108	105

〈教科に関する調査結果から（小学校）〉

- 小学校においては、全国と比較して、国語Bが3ポイント、算数Aが4ポイント高かった。3年ごとに行われている理科の調査については全国とほぼ変わらなかった。
- 国語では、書かれている内容を短い言葉でまとめる力や、場面の移り変わりを捉える力が育ってきている。
- 「新聞のコラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く」問題や「作品募集の案内の中から必要な情報を読み取る」問題が、全国・県の正答率を下回ったことから、語彙を豊かにすることや、全体を見通し構成を考えて書くことに課題がある。
- 算数では、整数、分数の計算や平行四辺形の構成要素等、基礎的基本的な知識や技能は身に付いている。
- 計算の結果を見積もったり確かめたりすることや、示された条件や情報をもとに説明することに課題がある。

○理科では、体験を重視した指導により器具の扱いに慣れていることが伺える反面、正確に器具を使用して実験や観察をすることに課題がある。

〈教科に関する調査結果から（中学校）〉

○中学校においては、全国と比較して、国語Bが6ポイント、数学Bが15ポイント、理科が9ポイント高かった。特に、数学、理科については、県と比較しても4ポイント以上高く、理数系に強い傾向にあるといえる。

○国語では、複数の資料から情報を得て考えを書くことが全国や県と比較して優れていた。

○資料提示など効果的な話し方や、相手意識をもった説明など、表現方法に課題がある。

○数学では、基礎的な計算方法や数学的な表現についての理解が身に付いている。

○与えられた条件をもとに数量や数量関係を見だし、問題に適した表現をすることに課題がある。

○理科においては、化学式を選んだり、質量パーセント濃度を求めたりするなど、基礎的、基本的な知識が身に付いている。

○「実験方法に関する他者の考えを検討して改善する」問題など、活用に相当する問題に課題がある。

2 学力の高い子 掛川10の法則

「平成27年度全国学力・学習状況調査」において、「児童生徒質問紙」と「学力」の相関関係を分析すると、次のような子どもが、国語や算数・数学の平均正答率が高い傾向にあります。

- ① 朝食を毎日食べている。
- ② 毎日同じ時刻に起きている。
- ③ 新聞を読んでいる。
- ④ 読書が好き。
- ⑤ 家の人と学校での出来事を話す。
- ⑥ 家の人や参観会などの学校行事に来る。
- ⑦ 地域や社会で起こっている出来事に関心がある。
- ⑧ 自分で計画を立てて勉強をする。
- ⑨ 友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意。
- ⑩ 1日あたりのテレビゲームの時間がない、もしくは少ない。

3 学びの環境改善のための提言

平成27年度掛川市全国学力・学習状況調査分析委員会の報告書「さらなる学校改善に向けて」によれば、次のように提言がされました。

- (1) 今求められている「学力」について、全教職員が共通認識をもつ
 - ・各学校において、全国学力・学習状況調査問題の特徴を理解したり、学習指導要領のねらいを把握した各教科の単元を構想したりするなどして、今求められている学力がどのようなものかを、全職員が共通認識を持つことが必要である。

- (2) 確かな学力を身につけるための授業改善を強力に推し進める
 - ・単元あるいは1時間の授業の中で「つけたい力」を明確にする。
 - ・単元を通して、「基礎的な知識・技能を確実に習得させること」「習得した知識・技能を活用させること」の授業をバランスよく取り入れる。
 - ・自分の考えを既習事項や図・表・グラフ・式等を使って相手に伝えたり、資料から読みとった事柄を根拠にして説明したりする活動を取り入れる。
 - ・授業のねらいを達成させるために、ICTを効果的に活用する。
 - ・実生活と関連つけた内容や発展的な内容、補充的な内容を計画的かつ積極的に取り入れる。
 - ・長文や資料を用いて、把握した内容を要約して書いたり、わかりやすく相手に伝えたりする活動を通して、「読み取る力」をつける。
 - ・教員自らが問題（テスト）を作成するなどして、毎時間あるいは定期的に学習内容の定着度の見取りを行う。

- (3) 生徒指導や学級経営、道徳の授業の充実を図る。
 - ・よりよい人間関係を基盤とした学級づくりや達成感・自己有用感を味わうことができる学級づくりを心がける。
 - ・自尊感情や規範意識を高めたり、自立心を育み積極的に学習に取り組む子どもを育てたりすることをめざし、「かけがわ道徳」を核とした道徳教育の充実に努める。

- (4) 子どもが家庭学習に主体的に取り組んだり、子どもの学びを支えたりする学習環境を整える。
 - ・学校と家庭との連携を図った家庭学習を推進する。
 - ・「教科の力を伸ばす家庭学習」の研究を進める。
 - ・学校支援ボランティア（地域住民・大学生・高校生等）を中心に、学校の補充学習を支援する体制をつくる。
 - ・家庭での規則正しい生活習慣や学習に集中できる家庭環境を大切にするように、学園単位で各家庭に働きかけをする。

第3章 学びのものがたり

平成25年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、県でのこれまでの一連の動きや市分析委員会による分析結果の報告等を踏まえて、学力向上に向けた掛川市の取組として、以下のような内容を全小中学校で取り組みます。

1 「新たな学びのプロセス」への転換

(1) 学びのユニバーサルデザインを重視した授業

ア 本時で何を学習するのか、何を考えさせるのかをはっきりさせる「焦点化」

- ・子どもたちに学習の見通しを持たせる。
- ・子どもたちが検討したい「問い」を設定する。 など

イ 思考を助けるために、学習している内容をわかりやすく表す「視覚化」

- ・学習の流れがわかるように板書を構造化する。
- ・子どもたちが考えをつくりやすくする教材や教具を工夫する。 など

ウ 個々の考え方を認め、よりよい支援や授業展開を考える「個への対応」

- ・一人一人のよさや困り感を見取り、特性に応じた支援をする。
- ・どの子どもも授業で活躍するために、多様な授業形態を工夫する。 など

(2) 授業過程の再構築

これまでの授業では、導入時の学習課題の提示から学習問題の設定までに、子どもの思考の流れを大事にするあまり、時間をかける傾向にあり、追究やまとめの時間が十分確保されないとの指摘がありました。

そこで、今後は、次のような例を参考に、早い段階で学習の見通しを持たせ、何を考えるのかの「問い」を提示し、追究やまとめの時間を十分確保するように意識化を図ります。

ア 興味のわく導入を工夫し、早い段階で学習問題を扱う。

イ 追究場面に十分な時間を配分する。(調べる、考える、話し合う、やってみる)

ウ まとめ時間を確実に取り、定着を図る。(結論を出す、確かめる、練習する)

<例>

導 入	→	導 入 (5分)
学習課題		学習問題 (5分)
学習問題	→	追 究 (25分)
追 究	→	
ま と め	→	ま と め (10~15分)

(3) 「新たな学びのプロセス」研修

- 研修主任研修会等の実施。
- 各校における授業実践や校内研修、指導主事の学校訪問による指導・助言を通して、新たな学びのプロセスへの転換を図る。

2 言語活動の充実

児童生徒が、確かな学力を身に付け、豊かにかかわり合うことのできる力を高めていくためには、すべての教科等で「書く」「話す・聞く」「読む」の言語活動を、各教科等のねらいの達成に向けて学習過程に位置付け、充実させていく必要があります。

〈筋道を立てて論理的に考える力〉

- 事実を正確に理解し伝達する。

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

- 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。

(例)・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して、自分の生活を管理する。

〈互いの考えを伝え合う力〉

- 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

(例)・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる。

〈自分の考えを自分の言葉で表現する力〉

- 体験から感じ取ったことを表現する。

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉、絵、身体などを用いて表現する。

- 情報を分析・評価し、論述する。

(例)・文章や資料を読んだうえで、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、400字以内といった条件の中で表現する。

・手紙や新聞にまとめて相手に伝える。

- 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。

(例)・理科の調査・研究において、仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。

3 地域の人に学ぶ活動の推進

- 多くの専門的知見を持つ地域の人から学ぶ活動を積極的に取り入れ、本物の体験活動等を通して「かけがわ型スキル」を養う。
- 地域ボランティアや退職教員等による放課後の学習指導等、地域との連携を積極的に行って学習支援を工夫する。
- 学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、子どもたちの発達段階にふさわしいキャリア教育を推進・充実する。

4 読書活動の推進

- 学校の読書環境が読書活動や指導方法に影響が大きいことから、学校図書館の整備など読書環境の整備を計画的に行うとともに、朝読書、読み聞かせなどの読書活動を通じて読書好きな子どもを増やす。
- 図書のみならず、新聞に積極的に触れさせることで、広い視野に立ったものの見方や考え方ができる子どもを育てる。
- 家での読書活動を充実するよう働きかける。

5 ICT・外国語活動の推進

- 「情報を収集・選択したり、共有したりする」「文章や図・表にまとめ、自分の考えをわかりやすく伝える」「学習内容の定着を確かにする」等、子どもの様々な学習場面においてICTを効果的に活用した授業に取り組む。
- グローバル化する社会において、様々な文化や歴史を有する国の人と関わり合うために、国際理解やコミュニケーションの活動を通して、コミュニケーションへの積極的な態度を養う。

6 読解力を伸ばす問題の作成・活用

- 問題作成を通して、教員としての指導力向上を図る。
- 各校で作成した問題や「チア・アップシート」「チア・アップコンテンツ」等を活用し、児童・生徒の読解力を養う。

7 市指定研究校による研究成果の共有

- (1) 城北小「確かな学力」(平成27・28年度)
- (2) 大浜中「ICT活用」(平成28・29年度)
- (3) 横須賀小「外国語活動」(平成28・29年度)

8 学力向上指標 【◎：目標値を超えた数値 ↑：昨年度と比較して上昇が見られた数値】

A 「学びのユニバーサルデザイン」を重視した授業づくり

◇ユニバーサルデザインに焦点を当てた校内授業研究を実施する。

○国語の授業の内容がよくわかると答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	30%以上	25%以上
平成27年度	◎30.6%↑	24.3%↑
平成26年度	26.0%	22.0%
平成25年度	27.2%	23.3%

○算数・数学の授業の内容がよくわかると答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	46%以上	37%以上
平成27年度	44.7%↑	36.5%↑
平成26年度	44.4%↑	34.9%
平成25年度	43.9%	35.3%

B 読解力を付ける

◇言語活動を取り入れた授業に全教員が取り組む。

○小学校国語A問題において、学習指導要領の領域等における「読むこと」及び「話すこと・聞くこと」に関する全ての設問の平均正答率を前年度以上にする。

平成27年度 平均正答率		54.3%
設問3	話の内容に対する聞き方を工夫する。	56.0%
設問5一	新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える。	60.1%
設問5二	新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える。	17.6%
設問6	登場人物の相互関係を捉える。	68.0%
設問7	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る。	69.8%
平成26年度 平均正答率		72.6%↑
平成25年度 平均正答率		42.2%

C 「かけがわ道德」を核とした人づくり

◇「かけがわ道德」の授業に全教員が取り組む。

○「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦する」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	24%以上	22%以上
平成27年度	◎26.1%↑	21.2%↑
平成26年度	21.1%	20.6%↑
平成25年度	22.4%	16.8%

○「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	70%以上	75%以上
平成27年度	◎71.5%↑	74.3%
平成26年度	72.0%↑	75.6%↑
平成25年度	67.7%	73.6%

○「将来の夢や目標をもっている」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	72%以上	51%以上
平成27年度	71.0%↑	◎51.2%↑
平成26年度	70.9%↑	49.4%↑
平成25年度	69.5%	48.9%

D 家庭での学習習慣を身に付ける

◇家庭学習のあり方について、「かけがわっ子 家庭学習のすすめ」等を参考にして保護者に働きかける。(各学校で、実態に合ったすすめを作成することもよい。)

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	26%以上	18%以上
平成27年度	25.8%↑	17.9%↑
平成26年度	23.5%	14.4%
平成25年度	23.5%	16.0%

E 本に親しみ、読書習慣を身に付ける

◇図書や新聞などを活用した授業に全教員が取り組む。

○家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上読書する児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	37%以上	35%以上
平成27年度	◎38.3%↑	28.3%
平成26年度	36.5%↑	30.9%
平成25年度	35.6%	32.2%

第4章 家庭のものがたり

掛川市では、学校と家庭や地域などが連携して、市民総ぐるみの教育を進めています。各学校では、創意工夫を凝らした「家庭学習の手引き」を作成するなどして、家庭学習の指導にあたっています。また、各家庭においては、子どもたちの生活習慣や学習習慣をよりよいものにする「家庭実践項目」を視点に、「家庭のものがたり」の実践をしています。

今後は、さらに、家庭での規則正しい生活習慣や学習に集中できる家庭環境を大切にすよう、学校や学園単位等で各家庭への働きかけを行います。

かけがわの子どもたち 家庭実践項目

子どもたちの学力を育むためには、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び行動する等の資質や能力は欠かせません。それらは、「人・もの・こと」と主体的にかかわる、豊かな体験や経験によって磨かれていきます。子どもたちの未来のために、子どもの姿を見つめ、家庭のものがたりをより豊かなものにしていきます。

項目	No.	家庭での取組例 ※「 」は「家庭の101話ものがたり」より
お茶の間で家族と団らんしましょう	①	家族で挨拶を交わしましょう。 「どんな朝でも「おはよう」から始まる朝」「我が家のハイタッチ運動」
	②	学校行事に積極的に参加しましょう。 「目標に向かってともに励む」
	③	将来の夢や希望を語り合いましょう。 「一緒に過ごす時間」「子どもが自分から話したくなるような雰囲気づくり」
	④	お茶の間で過ごす時間を大切にしましょう。 「話をすること」「我が家のお茶の間」
生活のリズムを整えましょう	⑤	早寝・早起きの習慣を身に付けましょう。 「朝早起き、夜早寝」
	⑥	しっかり朝食を食べて登校しましょう。 「我が家の朝食」
	⑦	バランスを考えた食事をしながら、家族の会話を楽しみましょう。 「我が家の約束事」「会話の時間」
学習習慣を身に付けましょう	⑧	継続して学習をしましょう。また、計画を立てて学習をしましょう。予習をして、次の授業に臨む習慣を身に付けましょう。 「漢字テスト～連続合格を目指して～」 「学習習慣・生活習慣」
約束やきまりを守って生活しましょう	⑨	テレビを見たりゲームをしたりする時間やルールを家族と決めましょう。 「SNSを正しく使って、家族の絆」「テレビとゲーム」
本や新聞等を読む時間を増やしましょう	⑩	家庭で読んだ本の感想を語り合いましょう。 「本のある生活」「うちの読書」
	⑪	様々な文章を読み、言語感覚を磨きましょう。 「絵本の読み聞かせ」
	⑫	新聞やテレビのニュースなどに関心を持ちましょう。 「文字に親しむ環境づくり」



かけがわの子どもたち 家庭学習のすすめ「家庭での取組ポイント」

家庭学習の習慣づくりは、学校で学習したことをしっかりと身に付けるためにとても大切なことです。各御家庭での取組の参考としていただくために、取組事例を紹介します。

項目	No.	家庭での取組例 ※「 」は「家庭の101話ものがたり」より
家庭学習の環境づくりのために	①	学習に集中して取り組めるスペースなどを設けましょう。
	②	お子さんが家庭学習を始めたら、テレビを消したり、音量を小さくしたりしましょう。
	③	学習する時は、学習に使うものだけを置くようにして、身の回りの整理整頓をさせましょう。
子どもがやる気になるようにするために	④	他の子とは比べずに、よくなったところやできるようになったところを見つけて大いに褒めましょう。 「小1夏から続行中」
	⑤	「この問題、わからない」という時も、投げ出すことがないように「教科書をもってきてごらん」「私ならこうやるよ」などと、子どもの努力に力を貸しましょう。 「苦手な漢字の練習法」「子どもの思い、親の思い」
学校での学習内容を把握するために	⑥	学校からのおたより等で学習内容等を確認しましょう。
	⑦	学校での出来事や学習の様子を聞き、子どもが頑張っていることや困っていることを理解しましょう。 「3人娘とのコミュニケーション」
	⑧	音読を聞いたり、プリントの丸付けをしたりするなどして、がんばりを褒めるようにしましょう。時には、各教科のノートを見て、がんばりを見つけたりアドバイスをしたりすることも良いでしょう。 「漢字1P」「親子の時間にできること」
子どもの豊かな心や感性を育むために	⑨	休日には、市内外の美術館やコンサート、自然公園等に出掛けて、芸術に触れたり、自然に親しんだりしましょう。 「キャンプを通じた支援体験及び人間交流」
	⑩	歴史、科学、自然等の学びの本やテレビ番組の視聴を通して、家族で内容について考えたり感想を語り合ったりしましょう。 「折り紙の上達について」「久々の家族旅行は長男の読んだ一冊の本から」
	⑪	手伝いや家事の分担をして、人の役に立つことの喜びを味わわせましょう。あわせて、様々な生活の知恵にも触れさせましょう。 「当番」「二女は小さなお母さん」「おてつだい」

第5章 我が校のものがたり（別冊）

各学校では、子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、これまで次のような様々な実践を積極的に進めてきました。これを参考に各学校が自校のものがたりをつくっています。

学力向上のための取組内容

1 研修の充実

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
- 学園内で統一した授業5原則の実践
- 授業技術の向上を目指した一人一授業の公開
- 毎週の学年会（学年研修）の実施、学年主任による評価（共通理解より共通実践）
- 計画的な学年研修による、教材研究の日常化、共有化の推進
- グローバル社会を生き抜くために、他と関わりながらよりよく問題を解決していく能力の育成
- 小集団学習を位置づけ、授業での練り合いにより問題解決する力の育成

【各小学校のH27研修テーマ】

じっくり考え 表現できる子
進んで表現し、深め合う授業
思いを受け止め 伝えられる子の育成
「できた!」「わかった!」がある授業 ～学んだことがまとめに表れる子～
学び合い高め合う授業づくり～「確かな学力」の育成～
自分のよさを発揮し ともに学ぶ子 ～「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善～
言語活動を核とした授業づくり ～国語科「読むこと」を窓口として～
思いを受け止め わかりやすく伝える子
子ども一人一人が「わかった・できた」を実感できる授業をめざして
「やる気」「やさしさ」「たくましさ」をもった子どもの育成 ～確かな道徳性を育む道徳教育の推進～
「やる気」「やさしさ」「たくましさ」をもった子どもの育成 ～確かな道徳性を育む道徳教育の推進～
学び合いを楽しむ子どもの育成
なるほど、わかった を実感できる子
大切なことが身に付くためのまとめ方の工夫
「説明する力を身につけた子」の育成
「自分の考えを高める子の育成」 ～関わりの中で学び、高め合う集団作りを目指して～
『「できた・わかった」を実感できる授業』 ～つきたい力に向かった手立ての工夫を通して～
「できた」「わかった」がっぱいの授業 ー学力の向上を目指してー
「できた! わかった! を実感し、進んで学び合う子」の育成
自分で考え、自信を持って表現する子
じっくり聞き、考えを深め合う子の育成
いきいきわくわく楽しい授業

【各中学校のH27研修テーマ】

意欲的に考え、表現する生徒を育てる授業づくり
仲間との学び合いを通して「わかった」「できた」と感じる授業づくり
つながりあい 学び合う授業
「やる気」「やさしさ」「たくましさ」をもった子どもの育成 ～確かな実践力を育む道徳教育の推進～
思考力・判断力・表現力を育む授業
高め合う授業
生徒が主体的に追究・表現し、「わかった」「できた」を実感できる授業づくり ～押さえ、仕掛け、確かめる指導～
「ともに高め合い、学力を伸ばす授業づくり」
かけがわ型スキルの育成を目指して ～ICT機器を効果的に活用したおおすか型授業スタイルの確立～

2 授業改善

- つけたい力を明確にするために、各学年の系統性の意識化
- 学びのユニバーサルデザインによる授業改善（視覚化、焦点化、個への対応）
- 全学年共通のノート指導、ノート展の開催
- 「聴く」をベースにした学習の基盤づくり
- 学習問題を赤四角で囲み、今日の学習で学ぶことを明確にした授業
- 「授業づくり三原則」を意識した授業づくり
- 専門家の指導を受けた授業改善を推進
- 授業改善3ヶ条による授業実践の推進
- 振り返りの時間を大切にする授業構成

3 言語活動の充実

- 言語活動の充実を核とした校内研修（国語、算数を中心に）の推進
- 各学年で表現スキルの設定
- 話す山・聴く山のレベルアップによる、発表・反応名人の設定
- 国語科以外の教科・領域における、言語能力の向上を図る活動の充実

4 少人数指導

- 達成感や充実感を味わわせるために、児童一人一人が学ぶ過程の重視
- 5年生、6年生を対象にした少人数指導の実施
- 算数における少人数指導のグループ編成の工夫

5 習熟度別指導

- 高学年の少人数指導（算数）における、習熟度別クラスの実施
- 課題をやりきらせるための個に応じた指導の実施

6 朝の学習活動

- 基礎学力の定着を目指した国語・算数の学習
- 話し方等の基礎を養う活動の実施
- 短時間で条件に合った文を書くことを目指した作文タイムの設定

7 放課後学習支援

- 年間数回程度、定着が充分でない児童を対象とした「とことん学習」の実施
- 国語・算数の基礎的内容を20分間で復習する「かがやきタイム」
- 放課後学習教室「寺子屋」の開催
- 放課後スタディやテスト前補充学習の実施

8 長期休業中の学習支援

- 夏季休業中に「夏休み寺子屋」として、補習学習の実施
- 夏季休業中に水泳学習及び補習学習の実施

9 家庭学習支援

- 「家庭学習の手引き」による家庭学習の充実
- 家庭学習時間の設定（低学年30分、中学年40分、高学年1時間以上）
- 「ノーメディアデー」の設定
- 「漢字・数学・英語の1Pノート」への取組による家庭学習の継続

10 読書活動の充実

- 司書教諭や学校司書とのチームティーチングを各学年で積極的に取り入れ、学校図書館を活用した授業の推進
- ボランティアや教師等による読み聞かせ及び読書バイキングの実施
- 毎朝10分間の読書タイムの実施
- 年間100冊の数値目標の設定（6年間で600冊）
- 読書目標の設定及び、「読書名人賞」「多読賞」による奨励
- 必読図書を読破した児童を賞賛する「読破賞」の設定
- 良書を紹介し、読書の質を高める取組の推進

11 ドリル学習

- 基礎学力定着のための週1回ドリルタイムの設定
- 下校前、算数計算領域の定着を目的にプリント等を使った指導
- 朝のドリルタイムで繰り返し学習を行い、漢字力、計算力を伸ばす指導

12 校内テスト

- 年5回、テスト期間を設定した復習テストの実施
- 「チャレンジテスト」による、基礎・基本の定着の徹底
- 毎週火曜日に国語、算数のテストの実施
- 定期テストの2週間後に基礎学力テストの実施
- 年4回の基礎学力テスト実施の際、2回のプレテストにより全員合格を目指した指導

13 調査問題の分析

- 学力調査を採点し、日々の授業に生かすための学力調査採点研修の設定
- 標準学力検査など客観的なデータ分析に基づく第三者評価の導入
- 全職員で学力調査の問題を解き、日常の授業を振り返りながら、6年間で子どもたちに付けたい力を再確認